

8-4-28 政策・事業評価専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 活動目標

当専門委員会は、主に道路系・河川系の計画系業務に関連する政策や事業評価に関する内容を取扱うものとし、セミナー等の企画・開催、各種政策の最新動向や事業評価制度、インフラ防災面での評価手法等に関する調査・研究を通じて、協会員や委員の実務的技術習得と技術水準の向上を目的とする。

(2) 専門委員会の開催

- ・専門委員会の開催回数：7回（WGは適宜開催）
- ・3つのWGにより活動

(3) セミナーWG活動

河川、道路、港湾分野を中心に事業評価に関わる最新動向を収集・整理し本委員会の場合での情報提供とセミナーの企画・開催を行った。

- a) セミナーテーマ：新たな時代の都市づくり・交通サービスのあり方（先進的な取り組みと今後の展開）

①スマートシティとコンパクトシティの融合に向けて

- ・スマートシティとコンパクトシティの違いを整理し、スマート+コンパクトシティへ向けた課題や取り組みについて解説

②モビリティ革命とMaaS

- ・100年に一度といわれるモビリティ革命、その本命とされるMaaS（マース）の最新動向、MaaSが都市やまちづくりに及ぼす影響等を解説

b) セミナー講師：2名

- ・早稲田大学 創造理工学部社会環境工学科
講師 森本 章倫氏
- ・一財）計量計画研究所 理事兼企画戦略部長
講師 牧村 和彦氏

c) 開催日時：

令和元年11月12日（火）13：30～16：40

d) 会場：弘済会館 4階

e) 参加者数：66名

(4) 政策評価WG活動

令和元年度は、過年度に引き続き、自動運転、ビッグデータ、ストック効果等に関する動向把握調査、新たにAIやMaaSをテーマに加えて国内における取り組みや導入事例などを調査し、とりまとめ内容を委員会内で共有した。

- ・MaaSの実施事例調査・視察候補地検討
- ・自動運転に関するシンポジウムの紹介
- ・AIカメラの実施費用の調査
- ・ドコモ社のオンデマンドバスシステムの調査
- ・河川分野のAI活用事例の調査

上記とりまとめの他、都市型MaaSの実証実験都市として、様々な道路空間の活用がなされている福岡市にて「マルチモーダルモビリティサービス（my route）」「AI活用型オンデマンドバス（のるーと）」；主に福岡市アイランドシティ内」を視察した（視察日：令和元年12月13日（金））。

(5) 事業評価制度WG活動

今年度は事業評価制度に関する動向把握として、各地方整備局の事業評価監視委員会の開催状況の把握とそれぞれの事業評価監視委員会における委員からの意見について主な項目別にとりまとめた。また事業評価に関する会計検査院や総務省からの意見等について分析した結果をとりまとめた。

2. 次年度の活動について

セミナーWGは、政策・事業評価等に関する最新情報・話題等を基に、道路分野、河川・港湾分野を中心としたセミナーの企画・開催を行う。また、それら分野に係る政策・事業評価に関する最新の話・トピック等の情報を幅広く収集し、委員会場で共有する。

政策評価WGでは、引き続き「①AI」、「②MaaS」、「③自動運転」をテーマに詳しい情報や最新動向や課題等の調査を実施する。

事業評価制度WGでは、事業評価制度の動向調査、事業評価関連マニュアルに関する調査、事業評価に関連する勉強会の開催等を実施する。

（政策・事業評価専門委員会委員長 篠崎 毅）